

東京言語研究所

集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学の研究者の方々ならびに言語学に興味をお持ちの方々を対象に〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開設しております。〈集中講義〉は、多様な研究領域に関して、ひとりでも多くの方々に知っていただくため、年間 2 回の集中講義を実施しています。ぜひご参加ください。

〈演題〉 島を眺めて―補文標識選択と島の制約―

〈講師〉 中島 平三氏（学習院大学教授）

〈日時〉 2016年3月26日(土) 13:00~18:20 (90分講義×3コマ)

27日(日) 10:30~16:20 (90分講義×3コマ)

〈会場〉 東京言語研究所（新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル13階）

〈参加費〉 一般 12,000 円

学生・大学院生・2015年度理論言語学講座受講生 9,000 円

〈申込み〉 ホームページ申込みフォームまたは FAX にて下記をご連絡下さい。（定数:50名）

※ 申込み受付期間は 2月1日(月)~3月24日(木)までです。

- ①集中講義受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
- ⑦E メールアドレス ⑧区分（2015年度理論言語学講座受講生・一般・学生）
- ⑨所属区分（大学生・大学院生・教員・会社員・その他）

（上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません）

講師紹介：東京都立大学大学院、米国アリゾナ大学大学院言語学科を修了、Ph.D. 千葉大学、東京都立大学などを経て、現在学習院大学教授、東京都立大学名誉教授。専門は生成文法・英語学・言語脳科学など。主な編著書に、『生成文法』（1998、岩波講座「言語の科学」第6巻、共著）、*Locality and Syntactic Structures*（1999、開拓社）、『最新・英語構文事典』（2001、大修館）、『明日に架ける生成文法』（2005、開拓社、共著）、『言語の事典』（2005、朝倉書店）、『スタンダード英文法』（2006、大修館）、『言語学の領域(1)』（2009、シリーズ 朝倉〈言語の可能性〉第1巻）、『ファンダメンタル英語学演習』（2011、ひつじ書房）、『これからの子どもたちに伝えたいことは・学問・科学の考え方』（2015、開拓社）、『島の眺望―補文標識選択と島の制約と受動化』（2016、研究社）、『ことばのおもしろ事典』（近刊、朝倉書店）など。

○ 問合せ先

公益財団法人ラポ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420 FAX:03-5324-3427

E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

生成文法研究史で常に多くの関心を集めてきた補文標識選択、島の環境、ルート変形などの問題を、ミニマリスト・プログラムの中核的概念であるフェイズ、併合などを中心にして、なるべく自然な、納得のいくような形で説明することを試みる。時間が許せば、受動化の諸問題について最小性原理を中心に据えて説明を試みる。

Nakajima (1996), “Complementizer Selection,” (*The Linguistic Review*, Vol. 13)では、平叙節補文標識 *that/Ø-that* と疑問節補文標識 *whether/if* の分布が並行的になることを指摘したが、そうした環境をさらに開拓し、補文標識の並行的関係がフェイズ理論のもとでは、内的併合の付帯現象(epiphenomena)として自然に導き出されることを明らかにする。この分析でも、同論文で提唱した「分離 Comp 仮説」——補文標識が現れる投射には CP タイプと TopP タイプの2種類がある——が重要な役割を果たす。

CP タイプの補文のみが現れる環境はいずれも、要素の抽出を阻む島の環境に相当することを指摘し、島の環境になる理由を、内的併合を受けた要素が表層構造で付与される表層意味解釈(δ 役割と名付ける)およびその原理である「 δ 規準」に基づいて説明を試みる。さらに、島の環境にはルート変形の適用(主節現象)が可能なものと不可能なものがあることを指摘し、その相違についても、 δ 役割、 δ 規準の観点から説明を試みる。

島の環境やルート変形の適用可能性と同様に、生成文法研究史で常に多くの関心を集め理論進展に大きな役割を果たしてきた受動化を巡る様々な問題——受動化できない他動詞、前置詞付き受動文、二重目的語構文の受動化、受動化と Tough 移動の並行性など——を、最小性原理を中心にして取り扱う。最小性原理と生物言語学の関係などについても考える。

教科書として、中島平三『島の眺望——補文標識選択と島の制約と受動化』(2016、研究社)を用いるので、購入を勧めるが、当日配布するコピーでも受講可能。

時間割

* 進捗具合により変更の可能性がります。

1. 補文標識の選択
2. 補文標識分布のより自然な説明を求めて
3. 島の環境と凍結原理
4. 島の環境と δ 役割
5. δ 役割とルート変形
6. 受動化と最小性原理

26日(土)

13:00 開講式
 13:10 講義—1
 14:40 講義—1 終了 休憩
 15:00 講義—2
 16:30 講義—2 終了 休憩
 16:50 講義—3
 18:20 講義—3 終了

27日(日)

10:30 講義—4
 12:00 講義—4 終了 休憩 昼食
 13:00 講義—5
 14:30 講義—5 終了 休憩
 14:50 講義—6
 16:20 講義—6 終了